

考古かながわ 第13号

1997年8月31日

会長になつて

神奈川県考古学会会長

寺田兼方

平成9年6月7日(土)、かながわ県民センターで開催された神奈川県考古学会の平成9年度総会に於いて、図らずも第3代会長の大役を仰せ付かりました。初代の日野一郎先生、2代の岡本勇先生と比べると、遥かに力量不足では有りますが、その重責を痛感して、可能な限りの努力を傾ける決意をしております。

さて、現在の会員数は約600名近くなりました。会員の内容も考古学研究者、考古行政従事者、発掘調査参加者、考古学専攻学生、考古学同好者、考古学愛好者など、実に多岐にわたっております。従って、会員御一人ごとの本会に対する御希望や御期待も、それぞれ多様化してきております。そこで、平成9年度より幹事の定数を30名に増員させていただきましたが、これには確かに仕事の分担上実質的に役員の数が必要という側面もありました。しかし、他方では、広く会員の中から本会の運営に参加してみたいという方々を発掘して、新しい空気を加えて会の運営に当たりたいという役員意向が有り、これを総会で御承認いただいた訳です。本会を運営する役員会といたしましても、可能な限り皆様方の御要望を集約して、御期待に応えるよう努力したいと考えております。

役員会でも、諸先輩が積み重ねてきた本会の活動を振り返って、反省すべき点が指摘されるようになりました。例えば、本会の活動方向が専門家向きに偏っているのではないか、という自らへの問い掛けがなされ、会員全体に眼を向けた活動方向への修正が提言されております。また、現在の活動内容で、同好者や愛好者の方々にも本当に満足していただいているのだろうか、という不安も有ります。また、総会の出席率が極めて低いことも、役員会が頭を痛める課題でしたが、今年度は新機軸として考古トピックスの時代別発表を開催し、多数の方々のお出席をいただきましたので、今年の反省の上で来年も発展させたいものと考えています。

役員会でも、会員の皆様に御満足いただくためには、見学会の回数を増やして、年間最低6回は行事を開催する必要があるものと反省しております。その他必要に応じて臨時見学会などを加えて行く方向を検討していきたいと考えております。

最後に、10年の節目を目指して、本会の基礎作りに専念する所存ですので、どうか皆様のお支援と御協力をお願い申し上げます。

平成9年度 神奈川県考古学会総会報告

平成9年度神奈川県考古学会総会が平成9年6月7日(土) 13時30分よりかながわ県民センターで開催されました。

先ず寺田兼方副会長があいさつ、議長を寺田副会長に選出した後、議事に入りました。小川裕久総務委員の平成8年度事業報告、そして織笠昭会計委員の平成8年度収支決算報告に続いて伊東秀吉監事の会計監査報告があり、この報告については了承しました。

また小川総務委員から平成9年度事業計画案、織笠委員から平成9年度予算案が出され、併せて了承しました。

会則の改正が審議承認された後、役員の変更になり、閉会しました。総会后「97' かながわ考古トピックス」と題して神奈川県下の旧石器時代から近世までの時代毎の諸問題について発表しました(詳細は後述)。

当日は80名近い会員が参加され、大盛況のうちに終了し、その勢いは懇親会でもなかなか冷めやみませんでした。

議事1 平成8年度事業報告

- ① 平成8年度総会が平成8年5月11日(土) 横浜市開港記念会館で開催した。青山学院大学の吉田章一郎先生の「窯跡を訪ねて」の特別講演がありました。60名が参加しました。
- ② 「第20回神奈川県遺跡調査・研究発表会」が平成8年9月23日(日)、茅ヶ崎市文化会館で開催されました。400名が参加され、大盛況でした。特別講演には国立歴史民俗博物館平川南先生の「古代文字資料の現状について」の講演が行われました。
- ③ 研究誌「考古論叢神奈河」第5集の刊行 B5版本文118頁論文5編、資料紹介1編 700部印刷しました。
- ④ 連絡誌「考古かながわ」の刊行 B5版8頁11号9月、12号平成9年3月刊行しました。
- ⑤ 考古学講座「かながわの弥生時代の社会—後期の環壕集落から考える—」平成8年3月9日 かながわ県民ホールで200名が参加して行いました。
- ⑥ 考古学講座討論記録集の刊行 考古学講座「かながわの縄文文化の起源を探るパート2」A4版66頁 700部を平成8年10月15日に刊行しました。

- ⑦ 遺跡見学会 1回目横浜市歴史博物館 大塚歳勝土遺跡 今井康博氏の案内で7月6日(土)に実施しました。約30名参加 2回目相模原市立博物館 大貫英明学芸員の案内で平成9年3月22日(土)に見学12名が参加しました。

⑧ 役員会は次の通り実施しました。

- 第1回 平成8年4月28日(土)県立埋蔵文化財センター
- 第2回 平成8年7月18日(木)かながわ県民センター
- 第3回 平成8年9月10日(火)茅ヶ崎市文化会館
- 第4回 平成8年12月13日(金)県立歴史博物館
- 第5回 平成9年2月19日(水)かながわ県民センター
- 第6回 平成9年3月24日(月)かながわ県民センター

議事2 平成8年度収支決算報告(別表の通りです。)

議事3 平成9年度事業計画

- ① 神奈川県遺跡調査・研究発表会「小田原市中央公民館」平成9年9月14日(日) 10遺跡と特別講演を予定しています。
- ② 研究誌「考古論叢 神奈河」第6集の刊行 B5版98頁 700部 平成9年4月30日刊行しました。
- ③ 連絡誌「考古かながわ」の刊行 B5版8頁13号9年8月刊行予定と14号10年3月刊行予定する。
- ④ 考古学講座「古墳時代」会場未定 平成9年2月頃開催予定です。
- ⑤ 遺跡見学会 1回目平成8年8月頃「山北町河村城」、2回目平成10年3月頃「未定」です。
- ⑥ その他

議事4 平成9年度予算案(3頁参照)

議事5 会則の改正

1 役員定数の改正 神奈川県考古学会の会則第5条第1項5号を次のとおり改めます。

	現 会 則	新 会 則
幹 事	20名以内	30名以内

議事6 役員の変更

任期満了に伴う平成9・10年度役員の出選について議事5の了承のもとに現幹事20名に5名を増員させる事務局案が了承され、残り5名については会場出席者に参加を呼びかけました。

なお、総会終了後引き続き「97'かながわ考古トピックス」を開催しました。

神奈川県考古学会平成8年度決算報告

(収 入)

(単位：円)

(支 出)

(単位：円)

節	予 算 額	決 算 額	比較増減△	説 明
機関誌 等売上				一 般 1,500×221部=331,500
				委託販売 7,200
				「考古論叢」売上 665,840
				会 員 1,800×70部=126,000
				一 般 2,300×3部= 6,900
				2,500×91部=227,500
				委託販売 305,440
				「考古かながわ」売上 200
				200×1部=200
				「考古学講座要旨」売上 407,970
			会 員 700×106部=74,200	
			800×18部=14,400	
			一 般 1,000×165部=165,000	
			委託販売 154,370	
雑収入	8,088	6,067	△2,021	預金利子 2,841
				寄付金 2,536
				送料収入 690
繰越金	1,111,912	1,111,912	0	
合 計	3,960,000	4,068,289	108,289	

節	予 算 額	決 算 額	比較増減△	説 明
会議費	130,000	86,347	△43,653	会議資料代 16,888
				会議費 11,759
				会場借上 7,700
				講師謝礼 50,000
会 誌 発 行	1,310,000	1,215,430	△94,570	考古論叢神奈河5集 印刷代 950,000
				考古かながわ11・2号印刷代 107,120
				原稿謝礼 21,000
				発送・連絡費 137,310
普 及 発 行	575,000	495,587	△79,413	会場借上 26,490
				会議費 9,437
				資料印刷代 141,620
				発送・連絡費 101,740
				考古学講座記録集 216,300
発表会	850,000	644,720	△205,280	発表要旨印刷代 500,000
				会場借上 48,850
				講師謝礼 40,000
				設 営 費 55,870
事務局費	600,000	318,543	△281,457	賃 金 228,000
				消耗品代 45,405
				通信運搬費 32,815
				雑 費 12,323
予備費	495,000	0	△495,000	
合 計	3,960,000	2,760,627	△1,199,373	

歳入、歳出計

平成8年度収入 4,068,289

平成8年度支出 2,760,627

執行残高 1,307,662

(次年度へ繰越)

会計監査報告

平成8年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類を精査し、預金残金と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

平成9年4月22日

監事 伊東秀吉 印

監事 金子皓彦 印

神奈川県考古学会平成9年度予算

(収 入)

(単位：円)

(支 出)

(単位：円)

節	予 算 額	前年度予算額	比較増減△	説 明
会 費	1,302,000	1,395,000	△93,000	9年度会費 3,000×434名=1,302,000
機関誌 等売上				発表要旨売上
				会 員 1,200×180部=216,000
				会員外 1,500×230部=345,000
				考古論叢6
				会 員 1,500×180部=270,000
				会員外 2,500×150部=375,000
				考古かながわ
				一 般 200×10部= 2,000
				考古学講座要旨
				700×200部=140,000
			考古学講座記録集	
			800×110部= 88,000	
繰越金	1,307,662	1,111,912	195,750	
雑収入	5,338	8,088	△2,750	
合 計	4,051,000	3,960,000	91,000	

節	予 算 額	前年度予算額	比較増減△	説 明
会議費	130,000	130,000	0	会議資料代 10,000
				会議費 60,000
				会場借上 20,000
				講師謝礼 40,000
会 誌 発 行	1,310,000	1,310,000	0	考古論叢神奈河6印刷代 1,000,000
				考古かながわ13・14印刷代 170,000
				原稿謝礼 10,000
				発送・連絡費 130,000
普 及 発 行	165,000	575,000	△410,000	講師謝礼 50,000
				会場借上 20,000
				会議費 20,000
				資料印刷代 20,000
				発送・連絡費 35,000
				保険料 20,000
発表会	850,000	850,000	0	発表要旨印刷代 600,000
				会場借上 60,000
				講師謝礼 40,000
				設 営 代 150,000
考古学 講 座	480,000	0	480,000	講師謝礼 60,000
				会場借上 30,000
				会 議 費 20,000
				考古学講座要旨印刷代 150,000
				考古学講座記録集(平成8年度実施) 200,000
				発送連絡費 20,000
事務局費	600,000	600,000	0	賃 金 300,000
				消耗品代 100,000
				発送・連絡費 120,000
				雑 費 80,000
予備費	516,000	495,000	21,000	
合 計	4,051,000	3,960,000	91,000	

●●●● 役員 の 横 顔 ●●●●

伊東秀吉（副会長）

本会が県内考古学の質的向上に寄与するとともに、普及啓発事業によって多くの人達に文化財に対する理解と関心を持ってもらいたいと思います。

小川裕久（総務担当） 大所帯の会になって、会員の声も多様と思われませんが、出来るだけ反映させるにはどうしたらよいか、模索していきたい。

村田文夫（総務担当） この会の創設から関わってきた一人として、いくつかの点で、改善したい点がありました。それらも着実に実行にうつされて感謝、感謝。さらに前進しましょう。

川口徳治朗（会誌担当） 活力のある考古学会と魅力のある会誌づくりに役立つことが出来ればと願っています。

岡本孝之（会誌担当） 新しい考古学博物館の建設運動を高めるために、どんなことでもしてみたい。それには県考古学会の活動をもっと活性化することです。

鈴木重信（会誌担当） 2期目を努めさせていただき、第7集の編集も頑張ります。会員の皆様には『考古論叢神奈河』の購読をお願いいたします。

織笠 昭（会計担当） 皆様のおかげで、ようやく会計健全化の方向に向かってきました。あと一歩、よろしくお願い致します。

中村若枝（会計担当） 会員の皆さんの熱気とともに、会が力強くなっていく感じがします。七年目になりますが、よろしくお願い致します。

白石浩之（連絡誌担当） 誌面のロゴを新聞や雑誌から使えるものをどんどん取り入れて、読みやすく、かつ変化のある連絡誌を目指します。

大塚真弘（連絡誌担当） 1期2年努めさせていただき、何の役にもたたず、申し訳ございませんでした。その為か、もう1期やらせられることになりました。会員諸氏へ奉仕の気持ちを忘れずに努めさせていただきます。

明石 新（連絡誌担当） 「会員の会員による会員のための考古学会」を目指したいと思いますので、宜しく御参加下さるようお願い申し上げます。

土井永好（連絡誌担当） 浅学非才、加えて経験不足ながら早くも役員4期目の身となりました。読んで楽しい誌面作りを目指します。

後藤喜八郎（講座担当） 6年間担当であった「考古かながわ」からの異動です。本年度の古墳時代の入門講座を成功させたいと思います。

伊丹 徹（講座担当） 昨年度担当した弥生時代講座成果集の刊行と、今年度開催予定の古墳時代講座準備に微力を尽くします。

加藤 緑（講座担当） 初役員です。すでに役員としてご苦労されている方々の負担が軽減されるよう、微力を尽くしたいと思います。

近藤英夫（見学会担当） 身近な遺跡や遺物に対する関心を喚起し、考古学を勉強する楽しさを多くの会員の方と共有できるような環境づくりに努力します。

安藤文一（見学会担当） 新役員として最近参加の少ない見学会を担当します。会員のニーズに沿った活動をとっていますので、よろしく。

田村良照（見学会担当） 役員の中では若輩なので、諸先輩のご指導を仰ぎながら思い切ったことをやりたいと考えています。取り敢えず、見学会については、県外の日帰りバスツアーを検討中です。その際は奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

村澤正弘（講座担当） 新米です。新米ならではの動きと発想でがんばっていきたくと思っています。よろしくをお願いします。

曾根博明（遺跡調査・研究発表会担当） 発表会を担当させていただくことになりました。とにもかくにも何とかしようと思っていますので、よろしくご協力をお願いします。

松尾宣方（遺跡調査・研究発表会担当） 「県内考古学統一組織結成」などと青臭い議論に熱中した学生時代を回顧し、汗顔の思いで今期も役員末席を汚させて戴きます。

降矢順子（遺跡調査・研究発表会） 県考古学会に入会して5年、今年度普及の遺跡発表会の担当になりました。現在鎌倉の由比ヶ浜遺跡発掘調査団に所属しています。中世に興味のある方見学にきて色々ご指導下さい。

諏訪間順（遺跡調査・研究発表会担当） 前回に引き続き普及を担当します諏訪間順です。今年度は小田原市で開催する遺跡調査・研究発表会の担当となりました。

加藤信夫（遺跡調査・研究発表会担当） 考古学の面白さや大切さが判っていただけるような企画ができたらいなと思っています。

市川規平（監事） 監事という仕事は、はじめてですが、諸先輩の温かいご指導の許、役目を全うしたいと思いますので、どうかよろしくをお願いします。

第21回神奈川県遺跡・調査研究発表会開催のお知らせ

1997年度の遺跡調査・研究発表会を下記の内容・要領で開催いたします。皆様おさそい合わせのうえ、多数お参加ください。

- 日 時 1997年9月14日(日)
午前9時50分より(受付開始9:30)
- 場 所 小田原市中央公民館
(小田原市荻窪300 ☎0465-35-5300)
- 主 催 神奈川県考古学会
○共 催 小田原市教育委員会
○後 援 神奈川県教育委員会

発表会次第

- I 開 会
II 発 表 (午前の部)
1. 藤沢市用田バイパス関連遺跡群……………栗原伸好
—旧石器時代の出土炭化財と尖頭器石器群を
中心に報告—
 2. 相模原市田名向原No4遺跡
……………戸田哲也・麻生順司・迫 和幸
—日本最古の旧石器時代の住居状遺構と大量の
黒曜石製の尖頭器製作址の調査—
 3. 小田原市御組長屋跡 ……………戸田哲也・小林義典
—縄文時代後期の敷石住居、石積遺構が海拔
12mの低地から検出された—
 4. 三浦市松輪間口東海蝕洞穴遺跡……………劔持輝久
—海蝕洞穴から初めて縄文時代後期の土器が
出土した—
 5. 小田原市千代仲の町遺跡第Ⅳ地点
……………諏訪間順・手島咲子
—足下郡衙の所在地の謎を解く「厨」銘の
墨書土器と弥生時代集落の調査—
- III 記念講演 (13:00)
戦国史研究と考古学の成果
静岡大学教授 小和田哲男
—NHK大河ドラマ『秀吉』の時代考証の
経験から—
- IV 発表 (午後の部)
6. 厚木市船子宮の里Ⅱ遺跡……………中村喜代重
—弥生時代中期から後期の方形周溝墓群の
調査で東海系(山中式)土器などを出土—

7. 川崎市津田山西前田横穴……………野中和夫
—未開口の横穴墓から木棺の遺跡を確認、太刀、
刀子、須恵器などの遺物が出土—
8. 川崎市橋樹郡衙関連遺跡 ……戸田哲也・河合英夫
—橋樹郡衙の正倉と推定される建物跡を検出—
9. 鎌倉市由比ヶ浜南遺跡……………斎木秀雄
—南北朝から室町時代の3,000体以上の人骨と
多量の獣骨(馬・牛・イルカ・鯨)が出土—
10. 史跡小田原城跡二の丸住吉堀の調査整備事業
……………塚田順正・大島慎一
—二の丸住吉堀の調査から石垣復原、そして
銅門復原までの史跡整備の事例を報告—

- V 閉 会
VI 紙上発表
11. 平塚市高間原遺跡……………田尾誠敏
—県内での少ない古墳時代中期(和泉式)の
集落の調査—
 12. 小田原市小田原城下町遺跡
……………小林竜一・上石統子・諏訪間順
—江戸時代の町屋遺跡である中宿町遺跡第Ⅲ地
点、欄干橋町遺跡第Ⅴ地点両地点の調査報告—
 13. 史跡相模国分寺跡僧坊跡……………須田 誠
—史跡整備に伴う相模国分寺僧坊跡の調査で
三時期の建物跡を検出—



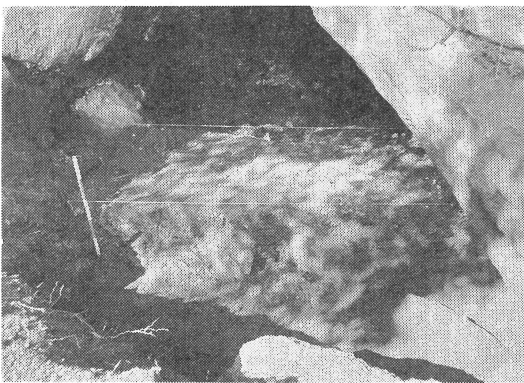
海蝕洞穴遺跡の生活痕跡

三浦半島の沿岸部に、波の浸蝕によってできた洞穴を弥生時代中期から平安時代にかけて、住居や墓地に利用した遺跡が43カ所ある。弥生時代中期から古墳時代前期には居住の場と墓地に利用され、古墳時代後期以降はもっぱら墓地に利用された。

洞穴遺跡の特徴の一つとして、洞穴内部に堆積した厚さ1m以上の、灰、炭、貝、砂の互層が挙げられる。弥生時代中期から古墳時代前期の生活遺物は、この堆積層に混じって検出される。堆積層の正体については、製塩に伴う排出物を想定する説があるが、近年の調査成果によれば、一枚一枚の互層は当時の生活面を示す施設として把握されようとしている。

このような考え方を追認するかのような結果が、最近調査された間口東洞穴遺跡から得られている。この洞穴は、これまで三浦半島の洞穴遺跡では発見されたことのない縄文時代の包含層が検出されたことでも特筆される。弥生時代の厚い堆積層は認められないのであるが、縄文時代後期の生活面が7期にわたって認められ、それらは焼土、灰、炭、貝、砂、を混ぜた複数の少ブロックを伴うものである。洞穴入口から中央部を中心に幾重にも重なるという状況は、まさに、厚い堆積層を構築する互層の初期段階をイメージさせるものであり、洞穴遺跡のあり方を考えるうえで、貴重な材料を与えてくれた。

(川口徳治朗)



三浦市 間口洞穴遺跡

朝光寺原1号墳出土の甲冑

鶴見川上流の谷本川^{やもとがわ}北岸台地縁辺に位置する朝光寺原古墳群は、円墳3基からなる。1号墳の墳丘規模が最大で、径約37mである。1967年、岡本 勇氏らにより発掘調査された。

1号墳の被葬者は、木棺内に東頭位(推定)で埋葬され、甲冑は、被葬者の頭部に置かれていた。冑は、短甲の中に納められており、受鉢等一部を欠く。短甲は「三角板鋳留短甲」、冑は、「小札鋳留眉尻付冑」と分類されるものである。

標記甲冑は、県下唯一の出土例であり、その製作は5世紀中頃と推定されている。金工にみる鋳留^{もず}技法は、当時の最先端技術であり、大阪府百舌鳥・古市古墳群の造営主体である政権中枢の下で製作・配布されたものと考えられる。

鉄製武器を身にまとい、武器を携える人物の存在は、他のさまざまな画期的な事象とも連動しているとみられる。古墳時代の神奈川を考える上で、重要な資料といえる。横浜市指定文化財。横浜市歴史博物館に常設展示されている。(鈴木重信)



(財団法人 横浜市ふるさと歴史財団提供)

昨年総会は、若干数の会員が参集されただけで、講演いただいた吉田章一郎先生にはたいへん失礼なことをしてしまいました。しかも、講演途中にスライドのランプが切れるというアクシデントがあり、途中で打切るといふ落ちもついてしまった。発表会や講座は別として見学会の参加も悪く、会としての方針の立て直しの必要性、あるいは危機感が役員会に広がった。

しかし、具体的な検討に入ったのは今年になってからで、いくつかの案がだされた中から、寺田先生の提案の「神奈川県内の各時代の最新情報を解りやすく発表すること」になった。初めてということで役員の中から人選を進めたが、縄文時代と古代については玉川大学の戸田さんと東海大学の田尾さんに依頼することにした。題目は以下のとおりである。

旧石器時代	織笠 昭
「謎の磨石?と尖頭器文化の行方」	
縄文時代	戸田哲也
「縄文時代集落を中心として」	
弥生時代～古墳時代前期	岡本孝之
「遺跡と人口の増減をめぐって」	
古墳時代後期～古代	田尾誠敏
「古代相模国の官衙と寺院をめぐって」	
中・近世	諏訪間順
「小田原城の発掘調査の成果」	

戸田さんは特に草創期研究の情報発信の地としての神奈川の特性を強調された。田尾さんは古代官衙と初期寺院研究の新視点として流通の拠点としての津(港)の存在を指摘された。

そして結果は、皆さんご存じのとおり、会場は溢れるばかり、盛会裏に日程を終えることができたが、反省すべき点も残された。スライドの必要性は諏訪間さんの強調するところである。会場は昨年の反省から開港記念会館から県民サポートセンター会議室に移したため、いっぱいとなったが、もっと広い会場を確保すべきであろう。そのためには中身の充実が要求されている。新しい研究発表の場として展開したいと思うのは私だけではないだろう。そして、そのためにはもっと日常的な活動の積み重ねが必要となるだろう。研究会、勉強会、月例会のような活動である。ともあれ来年の総会にはさらに充実した発表の場を構成したいと思う。国内最大規模の地方学会として、もっとできることを追求したい。

(岡本孝之)

昨年は3月「考古学講座かながわの縄文文化の起源を探る」(神奈川県考古学会主催)が、10～11月に「縄文文化誕生—都筑区花見山遺跡が解き明す最古の土器文化の謎—」(横浜市歴史博物館)が開催され、日本列島における土器の起源を考えるにあたって、神奈川県の遺跡・遺物のしめる役割の重要性があらためて浮き彫りにされた。

その一核心をなす縄文時代草創期の花見山遺跡に関する研究会が、去る7月27日午後横浜歴史博物館研修室において行なわれた。会は根田信隆・安藤広道・坂本の三人が世話人となり、関東甲豆各地の研究者・学生など26名が参加した。冒頭、世話人代表の根田さんが50年代の研究を回顧した開会あいさつをした後、「縄紋式草創期「花見山式」の構造と変遷一附：「寺尾式」から観た関東隆縄文土器の秩序—」と題する鈴木正博さんの講演が行なわれた。

鈴木さんはA4判26頁(付図含む)のレジュメと同42頁の資料(『(寺尾式土器の再吟味(後編))』の構想と実践—佐藤達夫没後20年の回顧と展望にも代えて—縄紋時代(東日本))を用意し、およそ3時間にわたり、自己の研究方針・花見山7型式説・「細石刃文」の成立、について熱弁をふるった。

花見山式の変遷は九州の泉福寺・福井洞穴の層位などから検証され、豆粒文は細石器装着状態の写しとの新見解が公表された。しかし時間不足のためか「寺尾式土器」に言及できず、期待は今後に残った。途中休憩時にあきる野・沼津市の資料が公開された。

次いで安藤さんを司会にして、講演内容を中心とした話し合いがもたれた。花見山6型式説(小林謙一さん)との相違。古文様帯をめぐる岡本東三さんの意見、豆粒文は最古との白石浩之さんの主張などが、鈴木さんを軸として室内を駆けめぐり、午後6時半になってようやく幕をとじた。同じ会場で8時まで、19人が参加して懇親会が行なわれた。和気あいの懇談の中で、次回も開いてほしいとの要望が出され、世話人で検討している。

(坂本 彰)

展 示 会

- 「古代オリエントを掘る」 古代オリエント博物館
10/4～1/30 休み無し
- 「注口土器の美」 東海大学湘南校舎
10/13～11/5 (除く11/2)
- 「古代の碑」 国立歴史民俗博物館
9/30～11/24 (除く木) 休翌火
- 「構之内遺跡展」 平塚市博物館
12/1～12/27 (月曜休館)
- 「考古学入門講座」 平塚市博物館
(要申し込み) 10/11・10/25・11/8・11/29

考古学講座

- 「考古学講座」 大井町中央公民館
11/22 13:30～
(神奈川県立埋蔵文化財センターに要申し込み)
- 「三浦半島地区遺跡調査発表会」
横須賀市人文博物館 11/23 (祝) 10:00～
- 「日本考古学協会秋田大会」 秋田市文化会館
10/10～10/12

役員を経験してみませんか。
会をより以上に良くしたい。
こんな会にしたい。
是非、ご連絡ください。
小川 045-252-8661まで

お 願 い

- ① 1997年度会費の納入をお願い致します。
会の運営は会費でおこなわれています。
- ② 考古論叢神奈河に原稿を投稿されたい会員は編集の川口までご連絡下さい。
- ③ 考古かながわ第14号3月刊の「会員の声」に執筆されたい方 白石 (045-252-8661) までご連絡下さい。

調査成果発表会

- 「(財)かながわ考古学財団平成8年度発掘調査成果発表会」(財)かながわ考古学財団
9/28 10/00～12:10 近代文学館ホール

公開セミナー

- 「旧石器時代の住居遺構を語る」
9/28 13:00～16:15 近代文学館ホール

編集後記

総会参加のあり方について、役員会で、いかに多くの会員が出席されるか、真剣に協議を重ねました。その結果『97" かながわ考古トピックス』と題して、県下で話題あるいは注目された遺跡等を取りあげて、その問題を考えていこうということになりました。おかげさまで、総会当日は大勢の会員が参加され、盛会になりました。来年はもう少し広い会場にしたいと考えています。

ただ、依然として総会自体のあり方は変わったわけではありません。会員の総会に対する積極的な声を期待したいと思います。

考古かながわ 第13号

発行 神奈川県考古学会
発行日 1997年8月31日
編集者 明石 新、大塚真弘、土井永好
白石浩之
事務局 東海大学文学部考古学研究室内
〒259-12 平塚市北金目1117
郵便振替 00240-9-71208
神奈川県考古学会
印刷所 有限会社長谷川印刷